「韓国社会における人口変動と文化・社会変動に関する調査」への参加

東洋大学の高橋統一教授，松本誠一講師と当研究所の清水浩昭技官は，1987年7月16日から8月5日（ただし，清水は7月25日）まで「韓国社会における人口変動と文化・社会変動に関する調査」に従事した．

今回の調査は，昨年度の調査研究をふまえて韓国の近代化と伝統的価値観の問題を農村社会の高齢者を対象にして人口学的，社会学的および文化人類学的に検討することにあった．今年度は，第2年目にあたることから済州島に調査対象を定め調査研究を中心にして問題を検討することにした．

筆者（清水）は，人口の高齢化と居住形態および老親扶養に関する分野を担当した．済州島の家屋構造は，一つの屋敷内に内棟（アンコリ）と外棟（パッコリ）が存在することになっている．これを居住形態の面からみると，子世代（主に長男）は結婚後も親世代の屋敷内に留まり，外棟で親世代（内棟）との別居生活を営むことを原則としている．さらに，次・三男も結婚すると屋敷外に新居を構え親世代と別居生活をすることになっている．また，財産相続は均分的傾向が強いといわれている．こうして親世代と営んでいた内棟での同居生活から子女がすべて独立することになると，親世代は外棟に移り，子世代夫婦が内棟で生活するようになる（これは，内棟の方が外棟よりも広いためである）．

しかし，近年，子世代は，結婚前に大都市に流出する傾向が強いため，子世代夫婦用の外棟は空家になっているケースが多いようである．

ともあれ，済州島では若年層の人口流出に伴って人口の高齢化が進展しているにもかかわらず，親世代が子世代に依存する傾向は弱く，韓国社会の全体状況とは異質な構造を示していることが明らかになった．

なお，今回の調査研究にあたっては，大韓老人会済州道連合会，済州道保健社会担当官洪淳晩氏，済州道北済州郡翰林邑長任昌鳳氏，作家の崔玄植氏，韓国老人問題研究所長朴在侃氏，韓国人口保健研究院の崔仁鉉氏，ソウル大学校の韓相福，李光奎，崔弘基教授，済州大学校の玄容駿，韓昌栄，梁重海教授，京畿大学校の張籌根教授，全南大学校の崔在律，朴光淳教授，仁荷大学校の崔柏教授，韓国外国語大学校の小澤康則講師にたいへんお世話になったことを記しておきたい．

（清水浩昭記）

JICA「メキシコ人口活動促進プロジェクト」への協力

国際協力事業団（JICA）は，1984年7月にメキシコ共和国に対する人口活動促進プロジェクトを，1988年9月までの5年の計画としてはじめた．協力の内容は，人口データ・バンクの整備と利用，人口教育・研修活動の促進の2つで，これらの活動に必要な専門家の派遣・メキシコ関係者の日本での研修および機材供与を行ってきた．

1987年8月16日より，早稲田大学嵯峨座晴夫教授（30日まで）と本研究所から伊藤達也人口情報部人口解析センター室長（9月5日まで）が，短期専門家として派遣された．メキシコでの業務は，人口教育活動の助言およびそれに必要な統計分析に関する技術指導（嵯峨座教授），社会経済データ・ベース構築作業の支援とそれを基にした各種の派生推計の技術指導（伊藤室長）および来年9月までの1年間の業務に関する予備調査であった．

なお，メキシコ滞在中に，これまで実施が非常に困難であった人口教育活動を実際に行っているグァナファト州サンホセ・イツルビーレ郡を訪問した．そこで人口教育担当の西岡八郎専門家，メキシコ国家人口審議会人口教育部長ロベルト・メディナ氏および州人口審議会事務局長・郡長など関係者より，昨年後半からの活動状況の報告を受けるとともに，実際の活動に参加することができた．

（伊藤達也記）